

# CEA

## 癌胎児性抗原キット

(クラスⅢ汎用・免疫・内分泌検査用シリーズ)

癌胎児性抗原 (CEA: Carcinoembryonic Antigen) は、1965年にGold P. とFreedman S. O. によってヒト大腸癌組織抽出液から見出された50~70%の糖を含んだ分子量約18~20万の酸性糖たん白質です<sup>1)</sup>。

たん白質成分は約700個のアミノ酸よりなる1本鎖のポリペプチドで、6個の-S-S-結合を有していることがわかっています。しかし、糖鎖の構造は十分に解明されていません<sup>2)</sup>。

血清中 CEA が高値を示す疾患症例は、大腸癌、膵癌、胃癌などの消化器癌に多く、肺癌や子宮癌、卵巣癌、胎児性癌などでも若干の陽性例が報告されています。良性疾患での陽性率は低く、多くの悪性疾患の診断や治療効果の判定、及び経過観察に有効な臨床検査法として、CEA の測定は広く利用されています。

1) Gold P., Freedman S. O., J. Exp. Med., 121, 439-462 (1965)

2) Yamashita K. et al., Cancer Res., 47, 3451-3459 (1987)

## 仕様

### 試薬構成

免疫反応試薬	Eテスト「TOSOH」Ⅱ (CEA)	(100テスト/箱)
標準品	Eテスト「TOSOH」Ⅱ (CEA) 標準品セット	(2濃度、各2本/箱)
検体希釈液	Eテスト「TOSOH」Ⅱ (CEA) 検体希釈液	(4mL x 4本/箱)
対象検体種	血清、ヘパリン血漿	
測定時間	免疫反応時間 10分 (1ステップサンドイッチ法)	結果報告 約20分
測定範囲	0.5~100 ng/mL	
健常人参考値	≤6 ng/mL <sup>3)</sup>	

3) 池田 他、臨床病理学会要旨集 (1991)